秋経協セミナーを県内３か所で開催

（10 月20日秋田市・11 月 5 日大館市・11月27日横手市）

『若者の働きたい魅力ある企業・地域づくりに向けて』

主催：（一社）秋田県経営者協会　共催：（公財）東北活性化研究センター

○講演 「地方の若年層はなぜ東京圏を目指すのか」

講師　（公財）東北活性化研究センター　地域・産業振興部　橋本　有子　氏

○パネルディスカッション（講師と県内企業3社の経営者を交えて）

（一社）秋田県経営者協会が主催し、（公財）東北活性化研究センターが共催したセミナー「若者の働きたい魅力ある企業・地域づくりに向けて」が、秋田市・大館市・横手市の3会場で開催された。

第1部では、公益財団法人東北活性化研究センターの橋本有子氏より、「地方の若年層はなぜ東京圏を目指すのか？」と題した講演会が行われ、第2部では、秋田県内の企業経営者をお招きし、「若者の働きたい魅力ある企業・地域づくりに向けて」をテーマにパネルディスカッションが行われた。大会には会員、一般を含め3会場合計で200名を超える参加tなった。

第1部の橋本氏の講演では、東北活性化研究センターが行った調査結果が紹介され、若年女性が首都圏に就職する要因は、①求人・採用面では幅の広さやオンライン化、②労働環境・働き方では業務の IT 化や繁忙期の労働条件、③キャリアの形成面では得られるチャンスの多さ、④ライフスタイル・環境面では公共交通機関の整備度合い、などであった。また若年女性が東北圏の企業・自治体に望むことの上位には、①IT 化やリモートワーク等の推進、②産休、育休後のキャリア支援、③給与水準や文化生活環境の整備などが挙げられた。

そのうえで若年女性の地域からの流出を防ぐためには、地域全体の意識を改革し、企業や自治体が連携して若年女性の視点を取り入れた雇用機会と選択肢を増やし、「働きたい」「暮らしたい」と思える環境の整備が不可欠との提言を行った。

第2部のパネルディスカッションでは、コーディネーターを秋田経済研究所　所長　佐藤雅彦氏が務め、パネリストに橋本有子氏（講師）、青山亜起菜氏（㈱青山精工・代取）、佐々木創太氏（むつみ造園土木め㈱・代取）、齊藤大樹氏（㈱斉藤光学研究所・代取）の4名を迎えて、「若者の働きたい魅力ある企業・地域づくりに向けて」と題して各社の取り組みの発表や意見交換を行った。

青山亜起菜氏は、「「女性活躍」は職場と家庭の両立に加え、自分の時間であるプライベートを含めた三角形の形であるべきだ。女性が秋田での暮らしを楽しいと感じ、それを発信できる環境や文化をつくれると結婚・出産にもつながる。秋田県はどんな人でも人生を楽しめる場所であるということを打ち出せれば、秋田の魅力の向上や労働力人口の増加につながっていく。」と話した。

佐々木創太氏は、学校に出向いて自社の業務を説明する出前講座に行ったときに、子どもさんが「お父さんが毎日、疲れた、つらいと言っているが、建設業は本当にそうなのか」と言われたことを紹介。「企業側が一生懸命発信しても足元からそういう情報が流れていたら業界が発展しない。業界全体で意識改革をしないといけない。またこれからの採用ポイントは、職場参観などの家族参加型の活動により縁故関係を採用につなげていくリファラルを促進していきたい」と語った。

齊藤　大樹氏は、「会社の良さをアピールするアウターブランディングだけでなく、インナーブランディングで従業員のエンゲージメント向上に力を入れており、この両輪が大事だと思っている。やりがいのある仕事は、新しいものを生み出す企画的な業務が多いのではないか。DXの推進やSNS戦略など、企業が自社を成長させるためのビジョンを描いけばそうした仕事が生まれ雇用の一つの受け皿になる。」と述べた。

最後にコーディネーターの佐藤雅彦氏がディスカッションの感想として、「若者が働きたいと思うために何が必要なのかというと、企業が成長するという目的をまず持つことであり、それに対してさまざまなポジティブな仕事をどんどん紹介して、その幅を広げていくことである。いろいろな会社がそのようなことに取り組めばそういった職域にマッチして都会に出ていく若者を呼び戻せるという内容のお話だったと思う。 われわれの取組みとして、秋田で働くことが若者自身のためになるという視点を持ってもらえるように努力していかなければいけないと痛感した。本日のパネルディスカッションにはそういったことがふんだんに盛り込まれていたと感じられた。」と述べて閉会となった。